

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「ネットショップの誤表記」
 - 2) 「堂島ロール、エンターテイメントなコラボ」
 - 3) 「災害時のペット保護」
-

1) 「ネットショップの誤表記」

昨年から数回起こっている、ネットショップ上での価格誤表記。1箱での販売にもかかわらず、価格が1個あたりの金額になっているなど、“破格”の値段で販売されているため、ミスに気づいたネットユーザーが大量に発注するなどして世間を騒がせている。

昨年10月、イトーヨーカドーが最初に誤表記した際は、発注者に表記どおりの金額で販売したが、サイトリニューアル後の12月に再度誤表記があった時にはサイト上にお詫び分を掲載のうえで、2000円の定額為替を送ることで対応した。

商品登録時の人為的なミスによって起こったものだが、相次ぐと「話題づくり」ではないかという声も挙がるようだ。しかしセブン&アイでは100%そのようなことはないと否定した。また大手企業だけでなく個人商店でも誤表記が起こっており、ネット上で騒動や混乱をまねいたという例もある。

経済産業省の情報経済課によると、民法などではネット通販への解釈が不明瞭で、主に同法に基づいた準則で誤表記の対応例を示している。販売元には、不法行為責任による損害賠償を求められることがあるが、誤表記について決まった賠償方法はなく、各企業の判断によるという。

ミスは避けたいものだが、起こってしまった場合は「対処法」でその後が大きく左右される。明らかにミスと分かっているのに発注するのともうかと思うが、誠意のある対応が必要だ。ボタン一つで物が買え、顔を見ずにクレームが言え、あっという間に噂が広がる世の中。運営側にはますます細心の注意が求められる。

2) 「堂島ロール、エンターテイメントなコラボ」

今や全国区となった大阪堂島発のモン シュシュの堂島ロール。ロールケーキブームの火付け役と言っても過言ではない。

そんな堂島ロールが各分野と様々なコラボロールケーキを販売している。

2008年12月22日からは、JAL「関空-ホノルル線」の機内食デザートとしてトロピカルロールの提供。2009年11月18日からの、世界的に有名なキャラクター“チェブラーシカ”との期間限定コラボロールでは、チェブラーシカの顔に見立てたキュートなロールケーキやクッキーを発売した。

現在は、劇団四季ミュージカル”ウィキッド”とのコラボによるエルフィーロールが会場内限定で販売されているほか、2010年11月11日からは映画”サヨナライツカ”とのコラボによるサヨナライツカ・ロールが発売。

各商品ともイメージにあった季節のフルーツが使われており、抹茶や紅茶などのバリエーションが通常の堂島ロールとは違った人気があるようだ。

スイーツのある暮らしを提案するモン シュシュは今後も様々なコラボロールを規格するのかもしれない。

3) 「災害時のペット保護」

兵庫県は、災害時にペットの保護に協力する「動物救援協定」を2月上旬にも、県獣医師会など4団体と締結する。阪神・淡路大震災をきっかけに、被災者の心を支えるペットの重要性が認識され、全国の自治体と獣医師会の間で締結の動きが広がっている。

協定には、災害時の「動物救護所」開設、ペットの救援に駆け付けるボランティアやペット用救援物資の受付窓口の開設、公衆衛生や治療での連携などが盛り込まれる見込み。

阪神・淡路大震災発生の日後、神戸市獣医師会などが立ち上げた「動物救援本部」が各地の協定のモデルになった。同本部は、避難生活で飼えなくなったイヌやネコなど約1500匹を保護。2年間で約360匹を飼い主に返却したほか、約1000匹については新たな飼い主を見つけ「家と家族を失い、ペットが生きがいであった」などの声が寄せられた。

その後、同本部は災害時の人とペットの共生を提言する報告書を作成。日本獣医師会は2007年、これを基にガイドラインを作り、各地の獣医師会に自治体と災害時の救援協定を結ぶよう呼びかけた。日本獣医師会によると、東京都、横浜市、静岡県などがすでに締結。兵庫県内の複数の自治体でも、締結に向けた動きが進んでいる。

04年の新潟県中越地震では、飼い犬を避難所に連れて行けず、一緒に車中生活した女性がエコノミークラス症候群で死亡した。神戸市獣医師会の中島克元会長は「人間が精神的な危機に直面したとき、そばにいてくれるペットが果たす役割は大きい。阪神・淡路で深まったペットとの共生への理解を、さらに深めていきたい」と話す。

阪神・淡路大震災から15年。その後も各地で大地震が発生し、そのたびに問題になっていたペットの保護。心の拠り所となるペットたちが無事に安全に保護されることで飼い主たちも不安が一つ減り避難生活の負担を軽減できると思う。家族として考えられることが当たり前になっているペットたちを取り巻く環境は、今後ますます進歩していこう。